※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | 1008 |
|---|---|

# 令和５年度　外国語科

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教材名・副教材名 |
|---|---|---|---|---|
| 外国語 | 論理・表現Ⅰ | 2 | 第１学年 | Harmony English Logic and Expression I |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・論理・表現Ⅰは、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」という４技能のうち、特に「話す」力、「書く」力をつける授業です。そのために、使える語彙を増やすためのトレーニングやペア・ワーク、プレゼンテーション、エッセイライティングなど幅広い活動をします。
・英語の語彙や文法を、実際のコミュニケーションでどのように使われるか、ということを意識して学習します。授業は「コミュニケーションの場」と捉え、積極的に発言しましょう。

## 2 学習の到達目標（「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標）

【第１学年】

| 領域 | 聞くこと | 読むこと | 話すこと（やり取り） | 話すこと（発表） | 書くこと |
|---|---|---|---|---|---|
| 学習到達目標 | ア.日常的な話題について､話される速さや､使用される語句や文､情報量などにおいて､多くの支援を活用すれば､必要な情報を聞き取り､話し手の意図を把握することができる。<br>イ.社会的な話題について､話される速さや､使用される語句や文､情報量などにおいて､多くの支援を活用すれば､必要な情報を聞き取り､概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 | ア.日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。<br>イ.社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 | ア.日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合い、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。<br>イ.日常的な話題や会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 | ア.日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。<br>イ.日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。 | ア.日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。<br>イ.日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。 |

## 3 学習評価(評価の観点と実施方法)

| 観点 | a 知識・技能 | b 思考・判断・表現 | c 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|

※令和４年度以降入学生用

| | | | |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 | ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまり（領域）ごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。<br>学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

## ４　学習の活動

| 学期 | 課<br>“題材名” | 領域 | 評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | LESSON 1<br>Meeting New People　自分のことを話す・相手のことをたずねる | 話すこと<br>（やりとり） | □現在形・現在進行形を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□あいづちの表現を適切に用いて，会話を続けることができる。<br>▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，現在進行形などを用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，海外からの留学生を歓迎することができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□グループになって自己紹介をし，ほかのメンバーの自己紹介を聞いて質問したり感想を伝えたりできる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |
| | | 話すこと<br>（発表） | □現在形・現在進行形を適切に用いて，自分のことや身の回りのひとについて説明することができる。<br>▶【知】Task, Share<br>□新しいクラスメイトに知ってほしいことを整理して，自己紹介をすることができる。<br>▶【考】Share<br>□自己紹介の冒頭・しめくくりでは，クラスメイトに対し，語りかけるようにあいさつを述べることができる。<br>▶【態】Share | |
| | | 書くこと | □状態動詞・動作動詞の現在形を用いて，正しく英文を書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□頻度を表す副詞を適切な位置に配して，正しく英文を書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□現在進行形が表す時制を正しく理解し，状況を表す英文を書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□be 動詞・一般動詞の現在形を用いて，自己紹介の原稿をつくることができる。<br>▶【知】Write | |
| | LESSON 2<br>Last Weekend<br>休日にしたことを説明する | 話すこと<br>（やりとり） | □過去形・過去進行形を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□実際にしたこと（事実）と，それをして思ったこと（感想）を区別して伝えることができる。<br>▶【考】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，過去形・過去進行形などを用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，週末にしたことを説明することができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになって先週末にしたことについて話すことができる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 話すこと<br>（発表） | □過去形・過去進行形を適切に用いて，最近したことについて説明することができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | 書くこと | □過去形を用いて，正しく英文を書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□過去進行形を用いて，正しく英文を書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□used to ...を用いて，正しく英文を書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□過去の表現を用いて，先週末したことを正しく書くことができる。<br>▶【知】Write | |
| 中間考査 | | | |
| LESSON 3<br>Weekend Plans<br>自分の予定を話す・相手の予定をたずねる | 話すこと<br>（やりとり） | □未来の表現を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□相手の発言に対し，適切な疑問詞を用いて，くわしくたずねることができる。<br>▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，未来の表現を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，週末の予定について話すことができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになって週末の予定について話すことができる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |
| | 話すこと<br>（発表） | □未来の表現を適切に用いて，これからする予定のことについて説明することができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | 書くこと | □〈will＋動詞の原形〉を用いて，正しく英文を書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□〈be going to＋動詞の原形〉を用いて，正しく英文を書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□when, if から始まる時や条件を表す副詞節の中で，未来のことを現在形を用いて書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□未来の表現を用いて，週末の予定を正しく書くことができる。<br>▶【知】Write | |
| LESSON 4<br>Weekend Plans<br>自分の予定を話す・相手の予定をたずねる | 話すこと<br>（やりとり） | □現在完了形を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□あるトピックに沿って，相手に質問を投げかけて，会話のきっかけをつくることができる。<br>▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，現在完了形を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，特別な経験について話すことができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになって珍しい体験について話すことができる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |
| | 話すこと<br>（発表） | □現在完了形を適切に用いて，完了したことや経験したこと，継続的にしていることについて説明することができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | 書くこと | □現在完了形を正しく用いて，完了したことやその結果について書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□現在完了形を正しく用いて，これまでに経験したことについて書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□現在完了形・現在完了進行形を正しく用いて，継続的にしていることについて書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□現在完了形を用いて，珍しい体験について書くことができる。 | |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | ▶【知】Write | |
| | 期末考査 | | | |
| | LESSON 5<br>School Rules<br>してもよいこと・してはいけないことを伝える | 話すこと<br>（やりとり） | □助動詞を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□誰かに対し，してもよいこと，してはいけないことを述べることができる。<br>▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，助動詞を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，してはいけないことについて話すことができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになって決まったルールについて話すことができる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |
| | | 話すこと<br>（発表） | □助動詞を適切に用いて，可能であることやしなければならないこと，依頼したいことについて説明することができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | | 書くこと | □助動詞 can・be able to, may を用いて，可能であることや許可を与える英文を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□助動詞 must/have to/should を用いて，義務や必要を表す英文を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□Will you ...?を用いて,誰かに依頼する英文を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□助動詞を用いて,規則について書くことができる。<br>▶【知】Write | |
| | LESSON 6<br>Are You All Right?　ある出来事について推測する | 話すこと<br>（やりとり） | □助動詞を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□ある出来事についての推測を述べることができる。<br>▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，助動詞を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，ある出来事の推測について話すことができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになって忘れ物について電話でやりとりすることができる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |
| | | 話すこと<br>（発表） | □助動詞を適切に用いて，可能性があることや推量,確信や推測,過去の出来事の推測について説明することができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | | 書くこと | □助動詞 can・may を用いて,可能性があることや推量できることの英文を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□助動詞 must, should を用いて,確信していることや推測していることについての英文を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□〈助動詞＋have＋過去分詞〉を用いて,過去のことを推測したり,過去にしなかったことへの後悔を英文で正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□助動詞を用いて,不思議なものについて推測して書くことができる。<br>▶【知】Write | |
| | 中間考査 | | | |
| | LESSON 7<br>Things Japanese　さまざまなものを | 話すこと<br>（やりとり） | □受動態を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□相手がしてきたあるものについての質問に対し，素材や形など詳しく説明することができる。 | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 紹介する | | ▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，受動態を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，あるものの説明をすることができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになって日本のものについて紹介する説明をすることができる。<br>▶【態】Share | |
| | | 話すこと<br>（発表） | □受動態を適切に用いて，だれに・何にされたのか，いつ・どこに～されるか，何かによって引き起こされる喜びや驚きについて話すことができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | | 書くこと | □受動態〈be＋過去分詞〉を用いて英文を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□受動態の疑問文を用いて正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□〈be＋過去分詞＋with/at/to/of＋もの・こと〉を用いて正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□受動態を用いて,日本のものについて書くことができる。<br>▶【知】Write | |
| | LESSON 8<br>Talking about Dreams　これからしたいことについて話す | 話すこと<br>（やりとり） | □不定詞を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□これから先のことや，したいと考えていることについて,伝えることができる。<br>▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，助動詞を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，将来の夢について話すことができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになって将来の夢について説明することができる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |
| | | 話すこと<br>（発表） | □不定詞を適切に用いて，「～することは…だ」，「何をするか」「何をすべきか」，「～しないこと」といった表現を使用しながら話すことができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | | 書くこと | □不定詞（名詞用法）を用いて正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□不定詞（名詞用法）を用いて正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□不定詞の主語・否定形を用いて正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□不定詞を用いて，将来の夢について書くことができる。<br>▶【知】Write | |
| | 期末考査 | | | |
| 3 | LESSON 9<br>To Keep Fit<br>足りない情報を補う・説明を付け加える | 話すこと<br>（やりとり） | □不定詞を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□何かをする・しないと言うときに，その理由を説明することができる。<br>▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，不定詞を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，「～するため」という説明を加えて話すことができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになって健康のためにしていることについて説明することができる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 話すこと<br>（発表） | □不定詞を適切に用いて，あるものに説明を加えたり，あることについての目的を説明したり，感情の原因について話すことができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | | 書くこと | □不定詞（形容詞用法）を用いてあるものや事の説明を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□不定詞（副詞用法）を用いて目的についての説明を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□不定詞（副詞用法）を用いて感情の原因や判断の根拠の説明を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□不定詞を用いて，健康維持のコツについて書くことができる。<br>▶【知】Write | |
| | LESSON 10<br>Our Future Devices　あるもの・人によって可能になることについて話す | 話すこと<br>（やりとり） | □使役動詞・知覚動詞を適切に用いて，会話できる。<br>▶【知】<br>□誰かにさせる，誰かができるようにすると伝えることができるようにする。<br>▶【知】<br>□事柄や話題について，内容を整理し，使役動詞・知覚動詞を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりできる。<br>▶【考】Task<br>□モデル会話の人物になりきって，誰かにさせる，誰かができるようにすると話すことができる。<br>▶【態】Start-Up<br>□ペアになってロボット・機器にしてほしいことについて説明することができる。<br>▶【態】Share | A. 授業観察<br>B. 発話評価<br>C. 課題提出<br>D. 定期考査 |
| | | 話すこと<br>（発表） | □使役動詞・知覚動詞などを適切に用いて,誰かにしてほしいことや誰かにしてもらいたいこと,一部始終を見たり聞いたりするという状況について話すことができる。<br>▶【知】Task, Share | |
| | | 書くこと | □〈動詞＋人＋to do〉を用いて正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□使役動詞を用いて許可,依頼，強制の意味を表す英文を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□知覚動詞を用いて一部始終を見る／聞く／感じるという状況を表した英文を正しく書くことができる。<br>▶【知】Task, Write<br>□使役動詞・知覚動詞を用いて，夢のロボットについて書くことができる。<br>▶【知】Write | |
| | 学年末考査 | | | |